

# 四半期報告書

(第117期第3四半期)

自 2019年10月1日

至 2019年12月31日

**株式会社秋田銀行**

秋田市山王三丁目2番1号

# 目 次

	頁
表 紙 .....	1
第一部 企業情報	
第1 企業の概況	
1 主要な経営指標等の推移 .....	2
2 事業の内容 .....	2
第2 事業の状況	
1 事業等のリスク .....	3
2 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 .....	3
3 経営上の重要な契約等 .....	8
第3 提出会社の状況	
1 株式等の状況	
(1) 株式の総数等 .....	9
(2) 新株予約権等の状況 .....	9
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等 .....	9
(4) 発行済株式総数、資本金等の推移 .....	9
(5) 大株主の状況 .....	9
(6) 議決権の状況 .....	10
2 役員の状況 .....	10
第4 経理の状況 .....	11
1 四半期連結財務諸表	
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	12
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	13
四半期連結損益計算書 .....	13
四半期連結包括利益計算書 .....	14
2 その他 .....	19
第二部 提出会社の保証会社等の情報 .....	20

[四半期レビュー報告書]

[確認書]

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2020年2月12日
【四半期会計期間】	第117期第3四半期（自 2019年10月1日 至 2019年12月31日）
【会社名】	株式会社秋田銀行
【英訳名】	THE AKITA BANK, LTD.
【代表者の役職氏名】	取締役頭取 新谷 明弘
【本店の所在の場所】	秋田市山王三丁目2番1号
【電話番号】	018(863)1212（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役執行役員経営企画部長兼広報CSR室長 皆川 剛
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区京橋三丁目13番1号 株式会社秋田銀行 東京事務所
【電話番号】	03(3564)3117
【事務連絡者氏名】	執行役員東京支店長兼東京事務所長 工藤 重信
【縦覧に供する場所】	株式会社秋田銀行東京支店 （東京都中央区京橋三丁目13番1号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

		2018年度第3四半期 連結累計期間	2019年度第3四半期 連結累計期間	2018年度
		(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
経常収益	百万円	33,087	31,672	45,163
経常利益	百万円	4,565	4,631	6,313
親会社株主に帰属する四半期 純利益	百万円	3,043	2,934	—
親会社株主に帰属する当期純 利益	百万円	—	—	4,142
四半期包括利益	百万円	△3,406	5,988	—
包括利益	百万円	—	—	1,129
純資産額	百万円	173,858	182,788	178,393
総資産額	百万円	3,066,237	3,123,840	3,024,615
1株当たり四半期純利益	円	169.56	163.85	—
1株当たり当期純利益	円	—	—	230.77
潜在株式調整後1株当たり四 半期純利益	円	169.30	—	—
潜在株式調整後1株当たり当 期純利益	円	—	—	230.41
自己資本比率	%	5.6	5.8	5.8

		2018年度第3四半期 連結会計期間	2019年度第3四半期 連結会計期間
		(自 2018年10月1日 至 2018年12月31日)	(自 2019年10月1日 至 2019年12月31日)
1株当たり四半期純利益	円	57.28	72.88

- (注) 1. 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜き方式によっております。
2. 2019年度第3四半期連結累計期間より、役員報酬B I P信託による業績連動型株式報酬制度を導入したことにより、役員報酬B I P信託が保有する当行株式を四半期連結財務諸表において自己株式に計上しております。これに伴い、当該信託が保有する当行株式は、1株当たり四半期純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。
3. 2019年度第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 自己資本比率は、( (四半期) 期末純資産の部合計 - (四半期) 期末新株予約権 - (四半期) 期末非支配株主持分 ) を (四半期) 期末資産の部の合計で除して算出しております。

#### 2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当行及び当行の関係会社が営む事業の内容については、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても、異動はありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性がある事項は発生しておりません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

以下の記載における将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1) 財政状態および経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間の状況は以下のとおりとなりました。

##### 預金

個人預金および法人預金の増加により、前連結会計年度末比573億円増加し、2兆7,256億円（譲渡性預金を含む。）となりました。

##### 貸出金

個人ローンは増加しましたが、事業先向け貸出および地公体向け貸出の減少により、前連結会計年度末比146億円減少し、1兆6,527億円となりました。

##### 有価証券

前連結会計年度末比491億円増加し、7,193億円となりました。

##### 損益

経常収益は、資金運用収益の減少により、前第3四半期連結累計期間比14億1千5百万円減少し316億7千2百万円となりました。経常費用は、資金調達費用や国債等債券売却損の減少により、14億8千2百万円減少し270億4千万円となりました。

この結果、経常利益は、前第3四半期連結累計期間比6千6百万円増加し46億3千1百万円となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、固定資産の減損損失により特別損益が悪化したことから、1億9百万円減少し29億3千4百万円となりました。

セグメント別の業績については、銀行業務は、経常収益が前第3四半期連結累計期間比14億5千万円減少の280億1千3百万円、経常利益は4千6百万円増加の45億4千6百万円となりました。リース業務は、経常収益が3千1百万円減少の35億4千9百万円、経常利益は2千6百万円減少の8千7百万円となりました。クレジットカード業務等のその他の業務は、経常収益が6千8百万円減少の10億3千4百万円、経常利益は3千1百万円減少の3億4千7百万円となりました。

国内・国際業務部門別収支

資金運用収支につきましては、国内業務部門で前第3四半期連結累計期間比371百万円（2.0%）減少し、国際業務部門で前第3四半期連結累計期間比54百万円（16.3%）減少したことから、合計では前第3四半期連結累計期間比425百万円（2.3%）減少しました。

役務取引等収支につきましては、国内業務部門で前第3四半期連結累計期間比86百万円（2.5%）増加し、国際業務部門で前第3四半期連結累計期間比1百万円（20.0%）増加したことから、合計では前第3四半期連結累計期間比86百万円（2.5%）増加しました。

その他業務収支につきましては、国内業務部門で前第3四半期連結累計期間比303百万円（41.8%）減少したものの、国際業務部門で前第3四半期連結累計期間比430百万円増加したことから、合計では前第3四半期連結累計期間比129百万円（29.6%）増加しました。

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	合計
		金額（百万円）	金額（百万円）	金額（百万円）
資金運用収支	前第3四半期連結累計期間	18,086	331	18,418
	当第3四半期連結累計期間	17,715	277	17,993
うち資金運用収益	前第3四半期連結累計期間	18,517	1,141	12 19,646
	当第3四半期連結累計期間	17,998	556	5 18,549
うち資金調達費用	前第3四半期連結累計期間	430	809	12 1,227
	当第3四半期連結累計期間	282	278	5 556
役務取引等収支	前第3四半期連結累計期間	3,319	5	3,325
	当第3四半期連結累計期間	3,405	6	3,411
うち役務取引等収益	前第3四半期連結累計期間	5,116	18	5,135
	当第3四半期連結累計期間	5,148	16	5,164
うち役務取引等費用	前第3四半期連結累計期間	1,797	12	1,809
	当第3四半期連結累計期間	1,742	9	1,752
その他業務収支	前第3四半期連結累計期間	724	△288	435
	当第3四半期連結累計期間	421	142	564
うちその他業務収益	前第3四半期連結累計期間	6,316	444	6,760
	当第3四半期連結累計期間	5,697	226	5,924
うちその他業務費用	前第3四半期連結累計期間	5,591	733	6,325
	当第3四半期連結累計期間	5,276	84	5,360

- (注) 1. 国内業務部門とは当行及び連結子会社の円建取引であり、国際業務部門とは当行及び連結子会社の外貨建取引であります。ただし、円建対非居住者取引、特別国際金融取引勘定分等は国際業務部門に含めております。
2. 資金調達費用は金銭の信託運用見合費用（前第3四半期連結累計期間0百万円、当第3四半期連結累計期間0百万円）を控除して表示しております。
3. 資金運用収益及び資金調達費用の合計欄の上段の計数は、国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の利息であります。

国内・国際業務部門別役務取引の状況

国内業務部門

役務取引等収益は、前第3四半期連結累計期間比32百万円（0.6%）増加し、役務取引等費用は前第3四半期連結累計期間比55百万円（3.0%）減少しました。この結果、役務取引等収支は前第3四半期連結累計期間比86百万円（2.5%）増加し、3,405百万円となりました。

国際業務部門

役務取引等収益は前第3四半期連結累計期間比2百万円（11.1%）減少し、役務取引等費用が前第3四半期連結累計期間比3百万円（25.0%）減少しました。この結果、役務取引等収支は前第3四半期連結累計期間比1百万円（20.0%）増加し、6百万円となりました。

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	合計
		金額（百万円）	金額（百万円）	金額（百万円）
役務取引等収益	前第3四半期連結累計期間	5,116	18	5,135
	当第3四半期連結累計期間	5,148	16	5,164
うち預金・貸出業務	前第3四半期連結累計期間	1,437	—	1,437
	当第3四半期連結累計期間	1,409	—	1,409
うち為替業務	前第3四半期連結累計期間	1,306	17	1,324
	当第3四半期連結累計期間	1,289	15	1,305
うち証券関連業務	前第3四半期連結累計期間	43	—	43
	当第3四半期連結累計期間	39	—	39
うち代理業務	前第3四半期連結累計期間	128	—	128
	当第3四半期連結累計期間	122	—	122
うち保護預り・貸金庫業務	前第3四半期連結累計期間	18	—	18
	当第3四半期連結累計期間	18	—	18
うち保証業務	前第3四半期連結累計期間	257	0	258
	当第3四半期連結累計期間	248	0	248
うちクレジットカード業務	前第3四半期連結累計期間	703	—	703
	当第3四半期連結累計期間	711	—	711
役務取引等費用	前第3四半期連結累計期間	1,797	12	1,809
	当第3四半期連結累計期間	1,742	9	1,752
うち為替業務	前第3四半期連結累計期間	197	10	207
	当第3四半期連結累計期間	196	8	205

（注） 国内業務部門とは当行及び連結子会社の円建取引であり、国際業務部門とは当行及び連結子会社の外貨建取引であります。

国内・国際業務部門別預金残高の状況

○ 預金の種類別残高（末残）

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	合計
		金額（百万円）	金額（百万円）	金額（百万円）
預金合計	前第3四半期連結会計期間	2,507,031	6,819	2,513,850
	当第3四半期連結会計期間	2,583,888	5,361	2,589,249
うち流動性預金	前第3四半期連結会計期間	1,449,868	—	1,449,868
	当第3四半期連結会計期間	1,540,054	—	1,540,054
うち定期性預金	前第3四半期連結会計期間	1,044,240	—	1,044,240
	当第3四半期連結会計期間	1,032,625	—	1,032,625
うちその他	前第3四半期連結会計期間	12,921	6,819	19,741
	当第3四半期連結会計期間	11,208	5,361	16,569
譲渡性預金	前第3四半期連結会計期間	161,566	—	161,566
	当第3四半期連結会計期間	136,418	—	136,418
総合計	前第3四半期連結会計期間	2,668,597	6,819	2,675,416
	当第3四半期連結会計期間	2,720,306	5,361	2,725,667

（注） 1. 国内業務部門とは当行及び連結子会社の円建取引であり、国際業務部門とは当行及び連結子会社の外貨建取引であります。ただし、円建対非居住者取引、特別国際金融取引勘定分等は国際業務部門に含めております。

2. 流動性預金＝当座預金＋普通預金＋貯蓄預金＋通知預金

3. 定期性預金＝定期預金＋定期積金



国内・国際業務部門別貸出金残高の状況

○ 業種別貸出状況（末残・構成比）

業種別	前第3四半期連結会計期間		当第3四半期連結会計期間	
	金額（百万円）	構成比（%）	金額（百万円）	構成比（%）
国内業務部門 （除く特別国際金融取引勘定分）	1,669,930	100.00	1,646,911	100.00
製造業	181,779	10.89	181,622	11.03
農業、林業	7,833	0.47	7,857	0.48
漁業	3,021	0.18	2,960	0.18
鉱業、採石業、砂利採取業	21,669	1.30	20,454	1.24
建設業	62,870	3.77	61,094	3.71
電気・ガス・熱供給・水道業	62,622	3.75	72,522	4.40
情報通信業	15,391	0.92	18,441	1.12
運輸業、郵便業	56,620	3.39	56,091	3.40
卸売業、小売業	149,345	8.94	147,690	8.97
金融業、保険業	85,166	5.10	87,279	5.30
不動産業、物品賃貸業	149,676	8.96	151,562	9.20
学術研究、専門・技術サービス業	4,384	0.26	4,936	0.30
宿泊業	10,912	0.65	9,987	0.61
飲食業	6,902	0.41	6,805	0.41
生活関連サービス業、娯楽業	10,121	0.61	9,037	0.55
教育、学習支援業	2,677	0.16	2,929	0.18
医療・福祉	66,398	3.98	63,090	3.83
その他のサービス	26,675	1.60	23,538	1.43
地方公共団体	356,610	21.35	326,607	19.83
その他	389,248	23.31	392,400	23.83
国際業務部門 及び特別国際金融取引勘定分	6,231	100.00	5,826	100.00
政府等	—	—	—	—
金融機関	977	15.68	896	15.39
その他	5,254	84.32	4,929	84.61
合計	1,676,161	—	1,652,737	—

（注） 国内業務部門とは当行及び連結子会社の円建取引であり、国際業務部門とは当行及び連結子会社の外貨建取引であります。ただし、円建対非居住者取引は国際業務部門に含めております。

(2) 経営方針・経営戦略等、経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

当第3四半期連結累計期間において、当連結会社の経営方針・経営戦略等、経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等に重要な変更はありません。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

(5) 主要な設備

主要な設備の状況

当第3四半期連結累計期間において完成した主要な設備の新設は次のとおりであります。

会社名	店舗名 その他	所在地	セグメント の名称	設備の内容	敷地面積 (㎡)	建物延面積 (㎡)	完了年月
当行	旭川支店	北海道旭川市	銀行業務	店舗	—	266.26	2019年4月
当行	本荘支店	秋田県由利本荘市	銀行業務	店舗	2,375.20	852.70	2019年7月

3 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数 (株)
普通株式	68,745,500
計	68,745,500

###### ②【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数 (株) (2019年12月31日)	提出日現在 発行数 (株) (2020年2月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	18,093,643	18,093,643	東京証券取引所 (市場第一部)	株主としての権利内容に制限のない、標準となる株式。 単元株式数は100株である。
計	18,093,643	18,093,643	—	—

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### ①【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### ②【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2019年12月31日	—	18,093	—	14,100	—	6,268

##### (5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

## (6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できず、記載することができませんので、直前の基準日である2019年9月30日現在で記載しております。

### ① 【発行済株式】

2019年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 140,600	—	株主としての権利内容に制限のない、標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 17,792,600	177,926	同上
単元未満株式	普通株式 160,443	—	同上
発行済株式総数	18,093,643	—	—
総株主の議決権	—	177,926	—

(注) 1. 「単元未満株式」の欄には、当行所有の自己株式73株が含まれております。

2. 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、役員報酬B I P信託が保有する当行株式87,900株が含まれております。

### ② 【自己株式等】

2019年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社 秋田銀行	秋田市山王三丁目2番1号	140,600	—	140,600	0.77
計	—	140,600	—	140,600	0.77

(注) 役員報酬B I P信託が保有する当行株式87,900株は、上記の自己保有株式には含まれておりません。

## 2 【役員】の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間において、役員の変動はありません。

#### 第4【経理の状況】

1. 当行の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第64号）に基づいて作成しておりますが、資産及び負債の分類並びに収益及び費用の分類は、「銀行法施行規則」（1982年大蔵省令第10号）に準拠しております。
2. 当行は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（自 2019年10月1日 至 2019年12月31日）及び第3四半期連結累計期間（自 2019年4月1日 至 2019年12月31日）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツの四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
<b>資産の部</b>		
現金預け金	595,933	647,477
コールローン及び買入手形	1,480	8,193
買入金銭債権	8,182	6,896
商品有価証券	536	5
金銭の信託	—	1,023
有価証券	※2 670,231	※2 719,355
貸出金	※1 1,667,321	※1 1,652,737
外国為替	1,471	2,203
その他資産	57,808	62,949
有形固定資産	20,617	20,290
無形固定資産	1,737	1,681
退職給付に係る資産	2,811	2,968
繰延税金資産	344	354
支払承諾見返	8,333	9,932
貸倒引当金	△12,193	△12,227
投資損失引当金	△0	△0
資産の部合計	3,024,615	3,123,840
<b>負債の部</b>		
預金	2,574,268	2,589,249
譲渡性預金	94,074	136,418
コールマネー及び売渡手形	11,999	41,583
債券貸借取引受入担保金	45,913	70,114
借入金	83,799	63,377
外国為替	270	127
その他負債	12,279	13,630
役員賞与引当金	20	10
退職給付に係る負債	2,666	2,557
役員退職慰労引当金	21	23
株式給付引当金	—	68
睡眠預金払戻損失引当金	639	518
偶発損失引当金	726	836
繰延税金負債	9,609	11,053
再評価に係る繰延税金負債	1,598	1,553
支払承諾	8,333	9,932
負債の部合計	2,846,221	2,941,052
<b>純資産の部</b>		
資本金	14,100	14,100
資本剰余金	9,212	9,212
利益剰余金	121,664	123,250
自己株式	△509	△670
株主資本合計	144,468	145,893
その他有価証券評価差額金	31,452	34,355
繰延ヘッジ損益	—	3
土地再評価差額金	2,980	2,981
退職給付に係る調整累計額	△1,238	△1,102
その他の包括利益累計額合計	33,194	36,238
新株予約権	84	—
非支配株主持分	646	656
純資産の部合計	178,393	182,788
負債及び純資産の部合計	3,024,615	3,123,840

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
経常収益	33,087	31,672
資金運用収益	19,646	18,549
(うち貸出金利息)	12,663	12,227
(うち有価証券利息配当金)	6,557	6,116
役員取引等収益	5,135	5,164
その他業務収益	6,760	5,924
その他経常収益	※1 1,545	※1 2,033
経常費用	28,522	27,040
資金調達費用	1,228	556
(うち預金利息)	421	292
役員取引等費用	1,809	1,752
その他業務費用	6,325	5,360
営業経費	17,943	17,728
その他経常費用	※2 1,215	※2 1,642
経常利益	4,565	4,631
特別利益	9	4
固定資産処分益	9	4
特別損失	168	458
固定資産処分損	38	144
減損損失	130	314
税金等調整前四半期純利益	4,406	4,177
法人税、住民税及び事業税	1,215	1,173
法人税等調整額	136	60
法人税等合計	1,351	1,234
四半期純利益	3,054	2,943
非支配株主に帰属する四半期純利益	10	8
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,043	2,934

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益	3,054	2,943
その他の包括利益	△6,460	3,045
その他有価証券評価差額金	△6,750	2,905
繰延ヘッジ損益	△0	3
退職給付に係る調整額	290	136
四半期包括利益	△3,406	5,988
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△3,417	5,977
非支配株主に係る四半期包括利益	11	10



【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

※1. 貸出金のうち、リスク管理債権は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
破綻先債権額	2,392百万円	2,209百万円
延滞債権額	31,629百万円	32,348百万円
3ヵ月以上延滞債権額	一百万円	一百万円
貸出条件緩和債権額	2,697百万円	1,187百万円
合計額	36,719百万円	35,745百万円

なお、上記債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

※2. 「有価証券」中の社債のうち、有価証券の私募（金融商品取引法第2条第3項）による社債に対する保証債務の額

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
	7,400百万円	9,570百万円

(四半期連結損益計算書関係)

※1. その他経常収益には、次のものを含んでおります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
株式等売却益	1,296百万円	1,771百万円

※2. その他経常費用には、次のものを含んでおります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
貸倒引当金繰入額	491百万円	1,001百万円
貸出金償却	64百万円	11百万円
株式等売却損	268百万円	309百万円
株式等償却	168百万円	14百万円
債権売却損	27百万円	14百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
減価償却費	1,205百万円	1,464百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年6月27日 定時株主総会	普通株式	628	35.00	2018年3月31日	2018年6月28日	利益剰余金
2018年11月12日 取締役会	普通株式	628	35.00	2018年9月30日	2018年12月10日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの  
該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月26日 定時株主総会	普通株式	628	35.00	2019年3月31日	2019年6月27日	利益剰余金
2019年11月11日 取締役会	普通株式	718	40.00	2019年9月30日	2019年12月10日	利益剰余金

- (注) 1. 2019年11月11日取締役会決議による配当金の総額には、役員報酬BIP信託が保有する当行株式に対する配当金3百万円が含まれております。  
2. 2019年11月11日取締役会決議による1株当たり配当額には、創業140周年記念配当5円00銭が含まれております。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの  
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの経常収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	銀行業務	リース業務	その他の 業務	計		
経常収益						
外部顧客に対する経常収益	28,998	3,465	659	33,123	△35	33,087
セグメント間の内部経常収益	464	115	442	1,022	△1,022	—
計	29,463	3,580	1,102	34,146	△1,058	33,087
セグメント利益	4,500	113	378	4,992	△426	4,565

- (注) 1. 一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。  
2. セグメント利益の調整額△426百万円は、セグメント間取引消去による減額426百万円であります。  
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「銀行業務」セグメントにおいて、遊休資産、営業利益の減少によりキャッシュ・フローが低下した資産及び地価が大幅に下落した資産について減損処理を行っております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては、130百万円であります。

当第3四半期連結累計期間（自 2019年4月1日 至 2019年12月31日）

1. 報告セグメントごとの経常収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結損益計算書計上額
	銀行業務	リース業務	その他の業務	計		
経常収益						
外部顧客に対する経常収益	27,645	3,410	616	31,672	—	31,672
セグメント間の内部経常収益	367	139	417	924	△924	—
計	28,013	3,549	1,034	32,596	△924	31,672
セグメント利益	4,546	87	347	4,981	△350	4,631

(注) 1. 一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。

2. セグメント利益の調整額△350百万円は、セグメント間取引消去による減額350百万円であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「銀行業務」セグメントにおいて、遊休資産、営業利益の減少によりキャッシュ・フローが低下した資産及び地価が大幅に下落した資産について減損処理を行っております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては、314百万円であります。

(金融商品関係)

前連結会計年度の末日に比して著しい変動はありません。

(有価証券関係)

※ 企業集団の事業の運営において重要なものであるため記載しております。

なお、四半期連結貸借対照表の「有価証券」のほか、「現金預け金」中の譲渡性預け金及び「買入金銭債権」中のその他の買入金銭債権の一部を含めて記載しております。

1. 満期保有目的の債券

前連結会計年度（2019年3月31日）

	連結貸借対照表計上額（百万円）	時価（百万円）	差額（百万円）
国債	599	610	11

当第3四半期連結会計期間（2019年12月31日）

	四半期連結貸借対照表計上額（百万円）	時価（百万円）	差額（百万円）
国債	599	604	5

## 2. その他有価証券

前連結会計年度（2019年3月31日）

	取得原価（百万円）	連結貸借対照表 計上額（百万円）	差額（百万円）
株式	25,717	53,676	27,958
債券	453,705	462,076	8,371
国債	122,605	126,303	3,698
地方債	113,099	115,045	1,946
短期社債	—	—	—
社債	218,000	220,727	2,726
その他	139,257	147,979	8,721
合計	618,680	663,731	45,051

当第3四半期連結会計期間（2019年12月31日）

	取得原価（百万円）	四半期連結貸借対照表 計上額（百万円）	差額（百万円）
株式	24,990	55,944	30,954
債券	478,163	484,472	6,309
国債	128,932	131,807	2,875
地方債	158,690	160,302	1,612
短期社債	—	—	—
社債	190,541	192,362	1,821
その他	159,022	170,981	11,959
合計	662,175	711,398	49,223

(注) その他有価証券のうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落しており、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当該時価をもって四半期連結貸借対照表計上額（連結貸借対照表計上額）とするとともに、評価差額を当第3四半期連結累計期間（連結会計年度）の損失として処理（以下、「減損処理」という。）しております。

前連結会計年度及び当第3四半期連結累計期間において、減損処理の対象となる有価証券はありません。

また、時価が「著しく下落した」と判断するための基準は、個々の銘柄について、第3四半期連結会計期間末日（連結会計年度末日）における時価が取得原価に比べて30%以上下落している場合であります。減損処理は、当第3四半期連結会計期間末日（前連結会計年度末日）における時価が取得原価に比べ50%以上下落した銘柄についてはすべて実施し、時価の下落が30%以上50%未満の銘柄については、基準日前一定期間の時価の推移や発行会社の財務内容などにより、個々に時価の回復可能性を判断し実施しております。

(金銭の信託関係)

前連結会計年度の末日に比して著しい変動はありません。

(デリバティブ取引関係)

前連結会計年度の末日に比して著しい変動はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

		前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益	円	169.56	163.85
(算定上の基礎)			
親会社株主に帰属する四半期純利益	百万円	3,043	2,934
普通株主に帰属しない金額	百万円	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益	百万円	3,043	2,934
普通株式の期中平均株式数	千株	17,951	17,908
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	円	169.30	—
(算定上の基礎)			
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額	百万円	—	—
普通株式増加数	千株	27	—
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		—	—

(注) 1. 株主資本において自己株式として計上されている役員報酬BIP信託が保有する当行株式は、1株当たり四半期純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。1株当たり四半期純利益の算定において控除した当該自己株式の期中平均株式数は当第3四半期連結累計期間43千株であります。なお、前第3四半期連結累計期間においては該当ありません。

2. 当第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2【その他】

### 中間配当

2019年11月11日開催の取締役会において、第117期の中間配当につき次のとおり決議しました。

- |                       |             |
|-----------------------|-------------|
| (1) 中間配当による配当金の金額     | 718百万円      |
| (2) 1株当たりの中間配当金       | 40円00銭      |
| (3) 支払請求の効力発生日及び支払開始日 | 2019年12月10日 |

(注) 1. 2019年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し支払います。

2. 1株当たりの中間配当金には、創業140周年記念配当5円00銭が含まれております。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

2020年2月7日

株式会社 秋田銀行  
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 深 田 建 太 郎 ⑩

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 木 村 大 輔 ⑩

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社秋田銀行の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(2019年10月1日から2019年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社秋田銀行及び連結子会社の2019年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当行(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。

## 【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2020年2月12日
【会社名】	株式会社秋田銀行
【英訳名】	THE AKITA BANK, LTD.
【代表者の役職氏名】	取締役頭取 新谷 明弘
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	秋田市山王三丁目2番1号
【縦覧に供する場所】	株式会社秋田銀行 東京支店 (東京都中央区京橋三丁目13番1号) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)



1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当行取締役頭取 新谷明弘は、当行の第117期第3四半期（自 2019年10月1日 至 2019年12月31日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。